

2026年3月期 決算説明会

地球をつつむ思いやり
ロジスティクスパートナー サンリツ

株式会社サンリツ
2026年6月5日

東証スタンダード
【証券コード：9366】



本日のご説明内容

1. 2026年3月期 決算概要
2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画
3. 2027年3月期 業績予想
4. Appendix
 - ・2026年3月期 連結貸借対照表
 - ・2026年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書
 - ・外部環境

1. 2026年3月期 決算概要

1. 2026年3月期 決算概要

2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画

3. 2027年3月期 業績予想

4. Appendix

1-1. 2026年3月期 決算概要

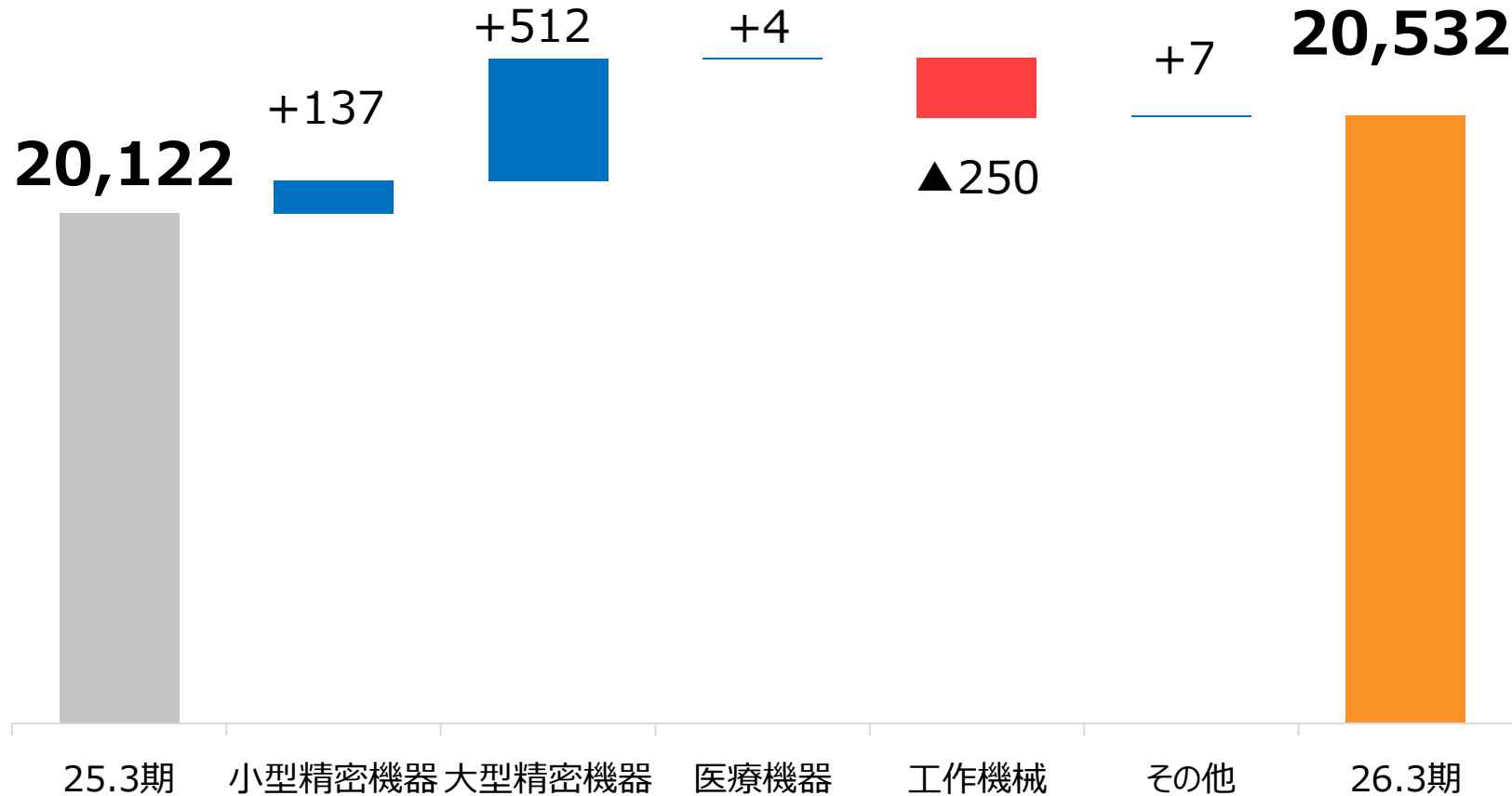
売上高	日本国内での工作機械及び電力変換装置の取扱いが好調に推移した影響により、増収
営業利益	日本国内での工作機械及び電力変換装置の取扱いが好調に推移したものの、主に関税等の影響で米国子会社における工作機械の取扱いが低調に推移した影響により、概ね横ばい
経常利益	前年計上した営業外業務委託料及び貸倒引当金繰入額が減少した影響により、増益

単位：百万円	2025年3月期	2026年3月期	前年比 増減	業績予想	予想比増減
売上高	20,122	20,532	+410	21,000	▲2.2%
売上原価	15,721	16,167	+446	-	-
(売上原価率)	78.1%	78.7%	+0.6pt	-	-
販売管理費	3,365	3,330	▲35	-	-
(販売管理費比率)	16.7%	16.2%	▲0.5pt	-	-
営業利益	1,034	1,035	+1	950	+9.0%
(営業利益率)	5.1%	5.0%	▲0.1pt	4.5%	+0.5pt
経常利益	802	987	+185	730	+35.3%
当期純利益※	468	687	+219	490	+40.4%
(当期純利益率)	2.3%	3.4%	+1.1pt	2.3%	+1.1pt

※ 当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益及び純損失を示します。以降のページ同様です。

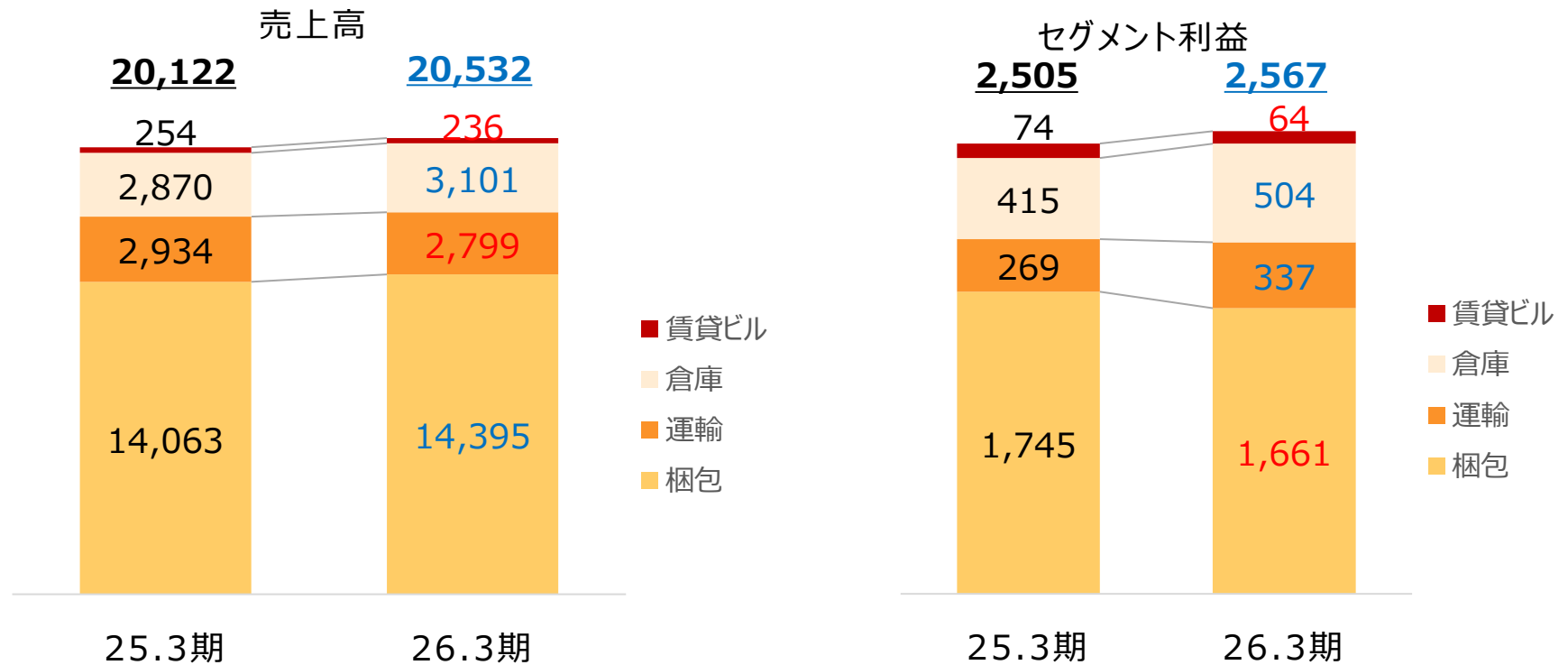
1-2. 取扱製品群別売上高増減

- ・工作機械は米国子会社での取扱いが低調に推移
- ・大型精密機器は電力変換装置の取扱いが好調に推移



単位：百万円

1-3. セグメント別実績



梱包

- ・日本国内での工作機械及び電力変換装置の取扱いが好調に推移したことにより、増収
- ・主に関税等の影響により米国子会社における工作機械の取扱いが低調に推移したことにより、減益

運輸

- ・医療機器の取扱いが軟調に推移したことにより、減収
- ・輸送費の値上がり分について顧客への価格転嫁を進めたことにより、増益

倉庫

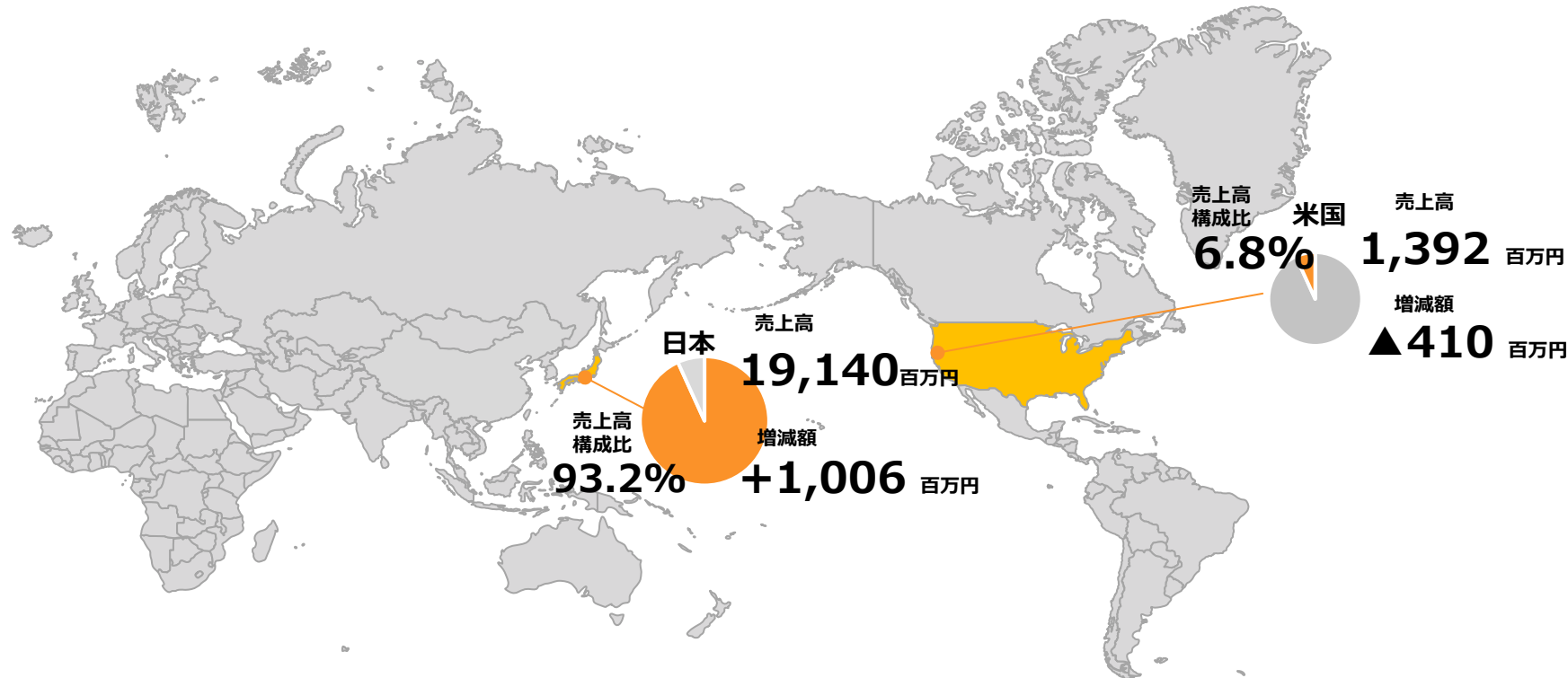
- ・電力変換装置の取扱いが増加したことにより、増収増益

賃貸ビル

- ・本社ビルの稼働率が低下したことにより、減収減益

1-4. 地域別売上高

- ・日本国内での工作機械及び電力変換装置の取扱いが好調に推移し増収
- ・米国においては主に関税等の影響を受け工作機械の取扱いが低調に推移し減収



USD/JPY=149.71

2. 2027年3月期～2029年3月期
中期経営計画

1. 2026年3月期 決算概要
2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画
3. 2027年3月期 業績予想
4. Appendix

2-1. 前中計の振返り①【2024年3月期～2026年3月期】

- ・環境変化を踏まえた収益体質転換を目指し、拠点投資や顧客対応、値上げは進展
- ・海外戦略変更やDXの効果遅れにより、利益確保のビジネス構築は計画遅れ

	主な事業戦略	成果	評価
事業戦略	《海外》シームレスな国際一貫物流サービス	・欧州進出計画⇒米国東海岸への投資に変更 自社新倉庫開設（投資総額 16億円）	△
	《海外》米国西海岸の新倉庫の安定稼働	・関税問題による顧客の商流変更により稼働率低下	△
	《国内》顧客理解深化によるソリューション提案	・主要顧客に専属営業を展開、府中倉庫を開設	△
	《国内》成田地区の事業拡大	・自社新倉庫建設（投資総額 53億円）	○
	《国内》DXによる省力・省人化	・5%相当の労働力創出に対し、1.8%にとどまる	△
基盤強化	人材の増強及び育成	・ソリューション推進人材を社内育成中 ・梱包人材用の人事制度設計を行うも導入に至らず	△
	サステナビリティの推進	・環境負荷低減 : CO2削減輸送提案実施 ・ダイバーシティ : 女性活躍推進／女性交流会実施 ・職場環境整備 : 従業員寒暑対策／倉庫空調設置	△

判定…○(達成見込、計画通り進捗)・△(未達見込、計画の遅れ)・×(未実施)

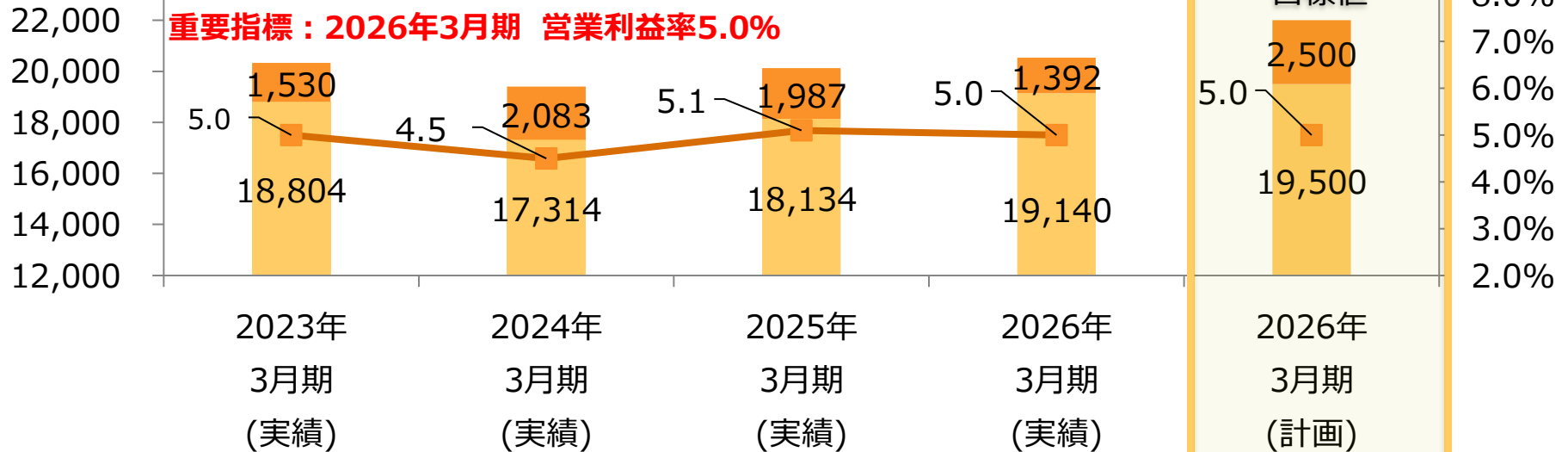
2-2. 前中計の振返り②【2024年3月期～2026年3月期】

売上高は未達となるも、営業利益率は目標値を達成

(単位：百万円)

国内売上高 海外売上高 連結営業利益率

重要指標：2026年3月期 営業利益率5.0%



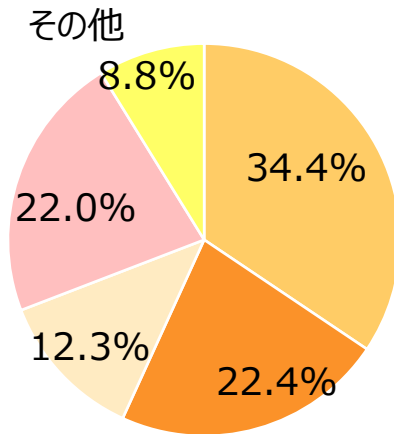
(単位：百万円)

連結	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (実績)	2026年3月期 (計画)
売上高	20,335	19,398	20,122	20,532	22,000
国内	18,804	17,314	18,134	19,140	19,500
海外	1,530	2,083	1,987	1,392	2,500
営業利益	1,019	865	1,034	1,035	1,100
営業利益率	5.0%	4.5%	5.1%	5.0%	5.0%

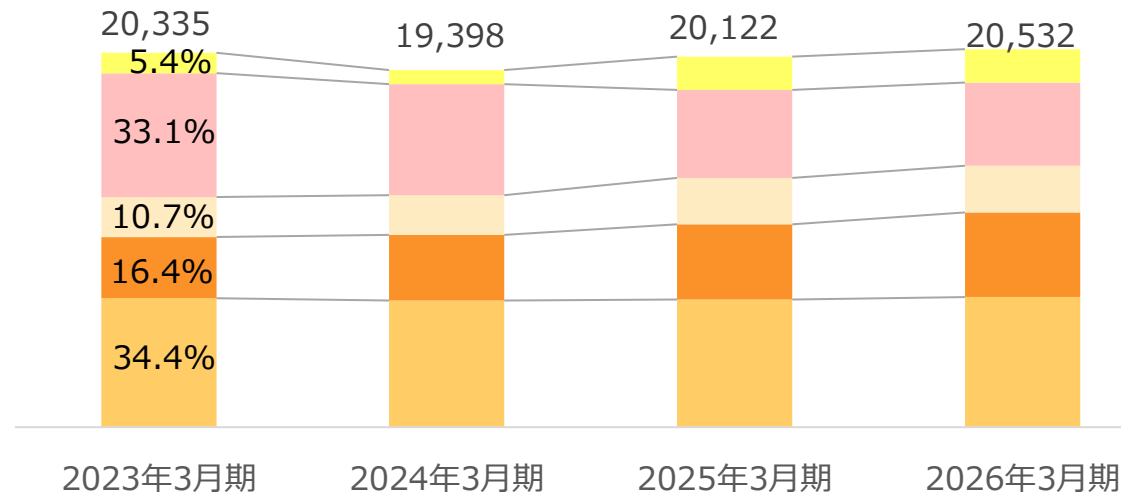
2-3. 前中計の振返り③【2024年3月期～2026年3月期】

大型精密機器 : 府中倉庫開設に伴う電力変換装置の取扱い増加により、概ね計画どおり増加
 工作機械 : 欧州進出中断、米国新倉庫が計画より低稼働となり、大幅に減少

取扱製品群別売上構成比 2026年3月期



取扱製品群別売上高推移 (百万円)



小型精密機器



計測器、電子部品、各種パーツ

大型精密機器



無線通信機器、半導体製造装置等

医療機器



カテーテル、ペースメーカー、CT、MRI 等

工作機械



マシニングセンタ、金属加工機械、NC旋盤等

2-4. ビジョン（中長期的に目指す姿）

オペレーションから ソリューションへ

『ソリューション』

お客様との対話を繰り返すことで、今まで引き出せなかったニーズだけでなく、お客様さえ気づいていない真のニーズを引き出し、解決する「ソリューション」の力を身に付けていく。

2-6. 新中期経営計画（事業環境）【2027年3月期～2029年3月期】

事業環境変化を貨物取扱量増加や高付加価値事業に転換できるかが重要に

外部環境

地政学リスク

- ・米中摩擦、中東情勢の不安定化
- ・世界的エネルギー価格や輸送コストの変動

為替リスク

- ・円安による海外利益増
- ・輸入資材の高コスト化

環境・政策リスク

- ・労働人口減少継続
- ・労働規制強化による労務コスト上昇
- ・脱炭素政策強化

当社グループへの影響(機会・リスク)

- ▶ 顧客サプライチェーン見直しによる**解約、失注リスク増加**
- ▶ 半導体、先端技術の**輸出規制強化**による**取扱量減少**
- ▶ **価格上昇による粗利益率低下**

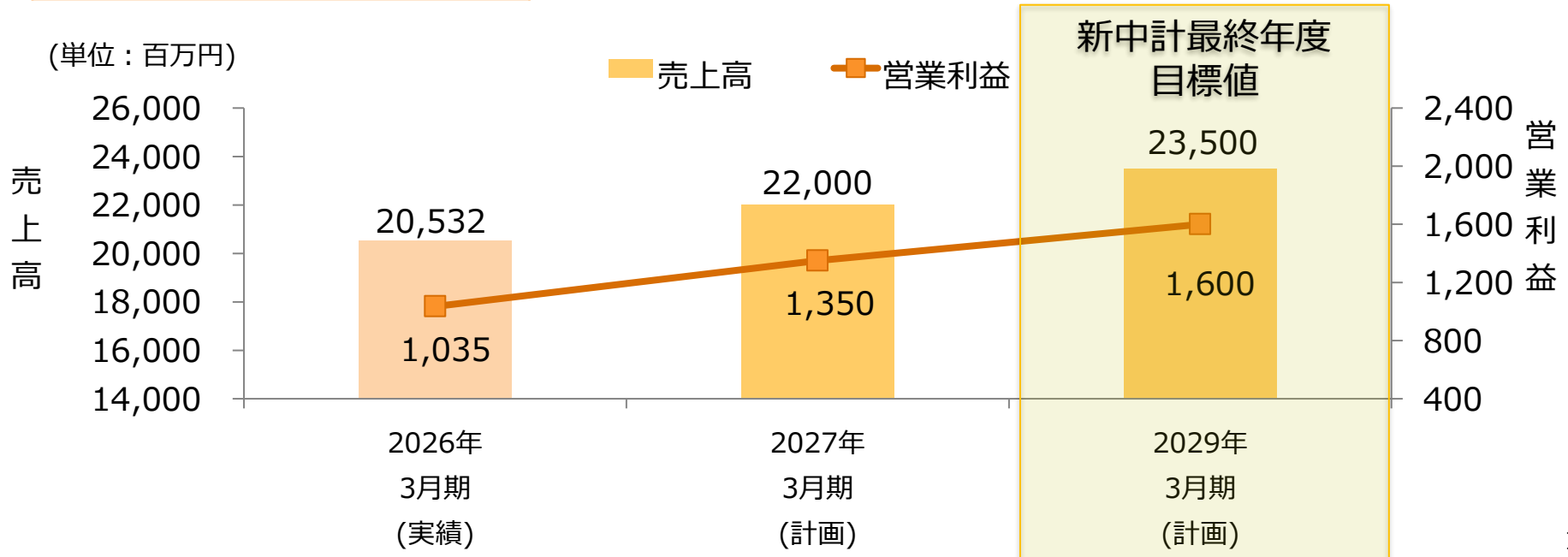
- ▶ 海外輸出**取扱量増加**
- ▶ 資材高騰による**粗利益率低下**

- ▶ 人材採用競争の激化による**人材不足**
- ▶ 賃上げによる**利益圧迫**
- ▶ **グリーン物流(モーダルシフト、リサイクル可能梱包)** **案件増加**

2-7. 新中期経営計画の概要①（経営目標）

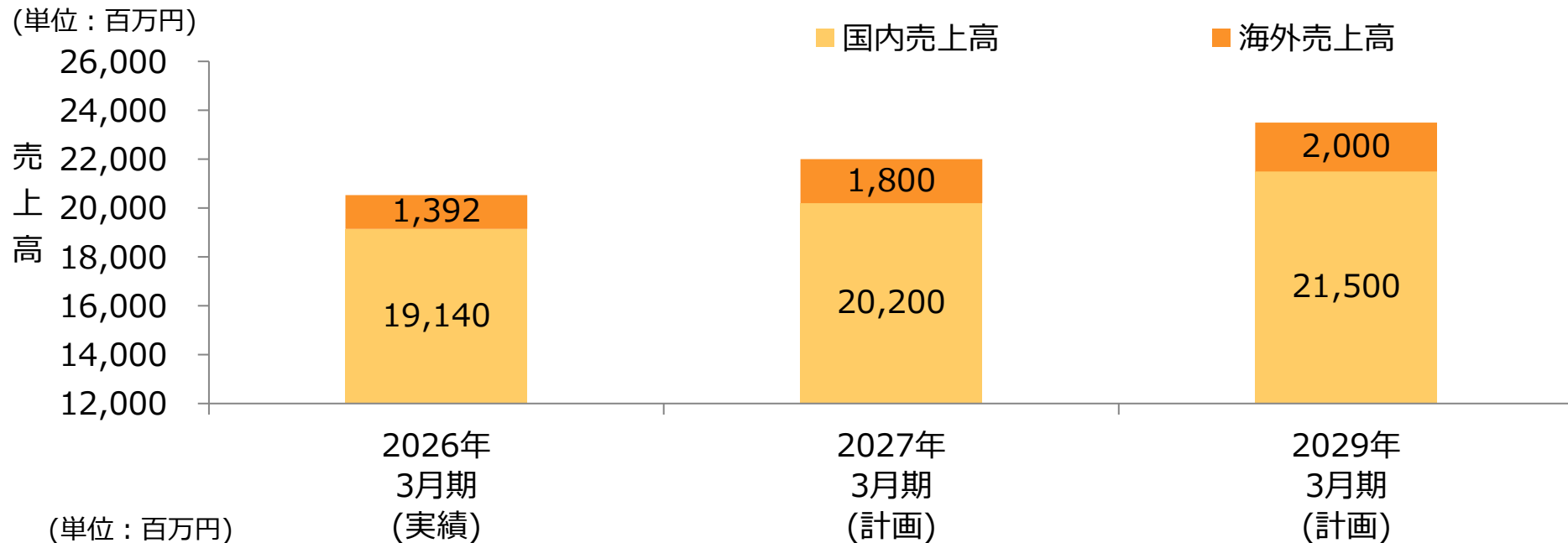
◆指標：2029年3月期 営業利益率6.8% ROE6.6%

2029.3 売上高	23,500 百万円	2029.3 営業利益	1,600 百万円	2029.3 営業利益率	6.8%
伸び率	14.5%	伸び率	54.5%	伸び率	1.8pts
2026.3 売上高	20,532百万円	2026.3 営業利益	1,035百万円	2026.3 営業利益率	5.0%



2-8. 新中期経営計画の概要②（国内・米国）

◆指標：2029年3月期 営業利益率6.8% ROE6.6%

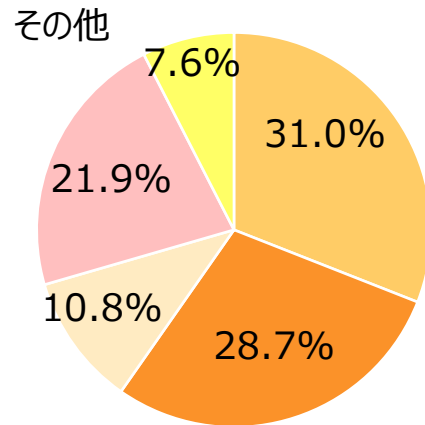


連結	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (計画)	2029年3月期 (計画)
売上高	20,532	22,000	23,500
国内	19,140	20,200	21,500
米国	1,392	1,800	2,000
営業利益	1,035	1,350	1,600
営業利益率	5.0%	6.1%	6.8%

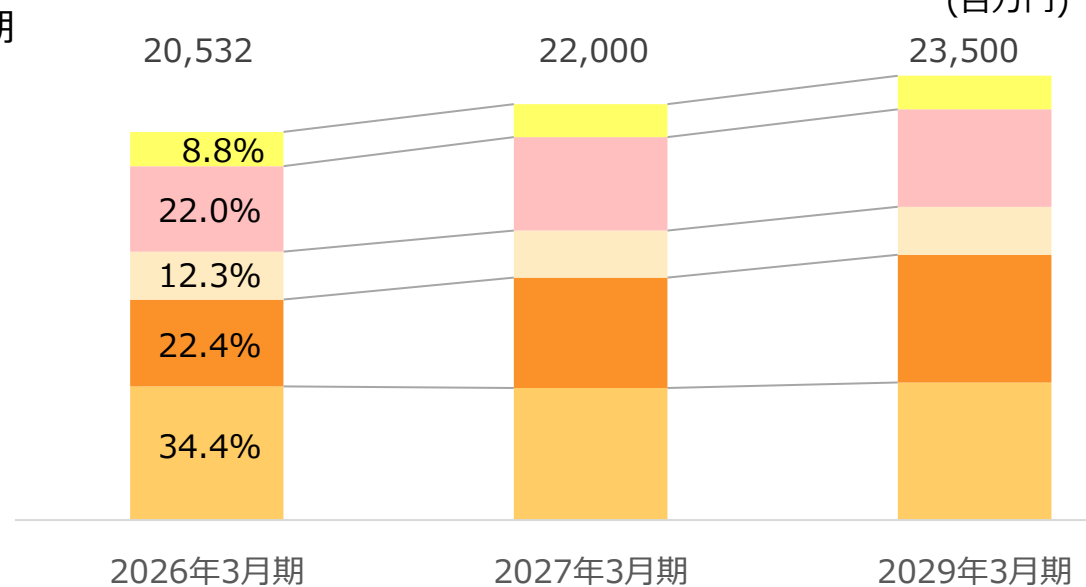
2-9. 新中期経営計画の概要③ (取扱製品群別)

大型精密機器 : 国内物流拠点の拡充による半導体製造装置の需要取り込み
 工作機械 : 米国での荷動き回復

取扱製品群別売上構成比 2029年3月期



取扱製品群別売上高推移 (百万円)



小型精密機器



計測器、電子部品、各種パーツ

大型精密機器



無線通信機器、半導体製造装置等

医療機器



カテーテル、ペースメーカー、CT、MRI 等

工作機械



マシニングセンタ、金属加工機械、NC旋盤等

2-10. 新中期経営計画の主な施策

1. 事業/重点施策	①収益力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・国内物流拠点の拡充 ・既存アセットの最大活用
	②付加価値の最大化	<ul style="list-style-type: none"> ・米国における倉庫起点の高付加価値サービス展開 ・国内における付帯サービスの価格最適化
	③業域の拡大	既存事業領域の深化
2. 基盤戦略	サステナビリティの推進	
3. 財務・資本	キャッシュアロケーション	株主還元

2-11. 事業/重点施策：収益力向上

◆国内物流拠点の拡充

小型精密機器

大型精密機器

成田新倉庫開設（2026年7月）／貨物取扱量増加を目指す

- ▶ 成田空港B滑走路の延伸を控えるなか、成田地区において、半導体製造装置や電子部品などの各種精密機器群をターゲットに、輸出梱包を中心とした物流サービスを拡充
- ▶ 保冷設備、大型X線検査装置を完備



大型X線検査装置

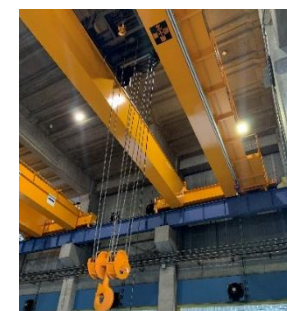


保冷設備イメージ

◆既存アセットの最大活用

- ▶ 横浜港エリアで最大級をほこる大型設備稼働率向上
- ▶ 適正価格転嫁
- ▶ 環境配慮型梱包（Steel梱包）の需要喚起

工作機械



40トンクレーン
2基

2-12. 事業/重点施策：付加価値の最大化

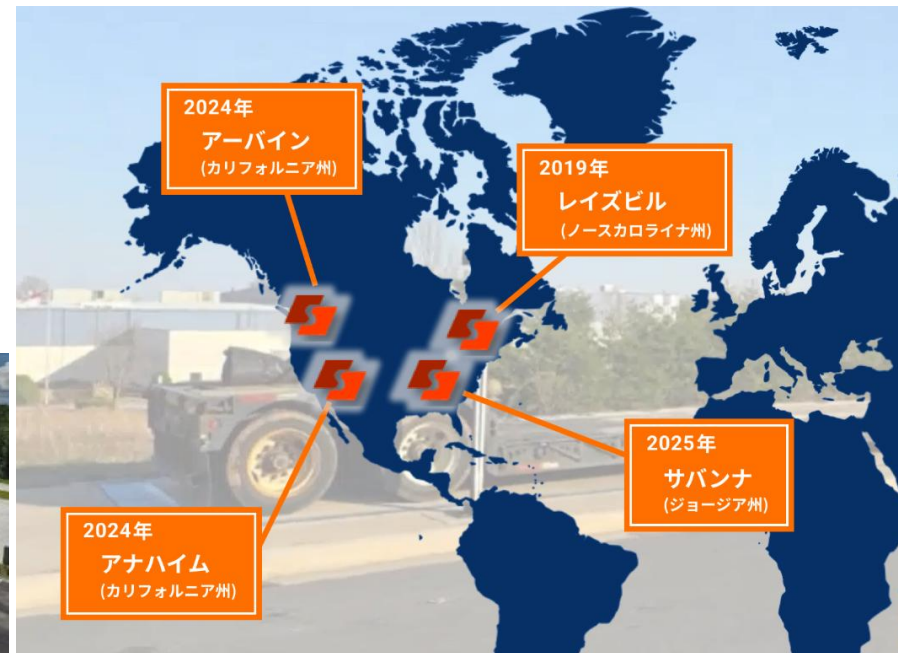
◆ 米国において倉庫起点の高付加価値サービスを展開

小型精密機器

大型精密機器

工作機械

- ・米国内ロジスティクスの拡大
 - ▶ 工作機械の取り扱いを更に強化とともに、大型/小型精密機器関連の取り扱いを拡大
- ・倉庫起点の高付加価値サービス展開
 - ▶ 日系製造業サポートサービス/テクニカルセンター開設/ショールーム開設

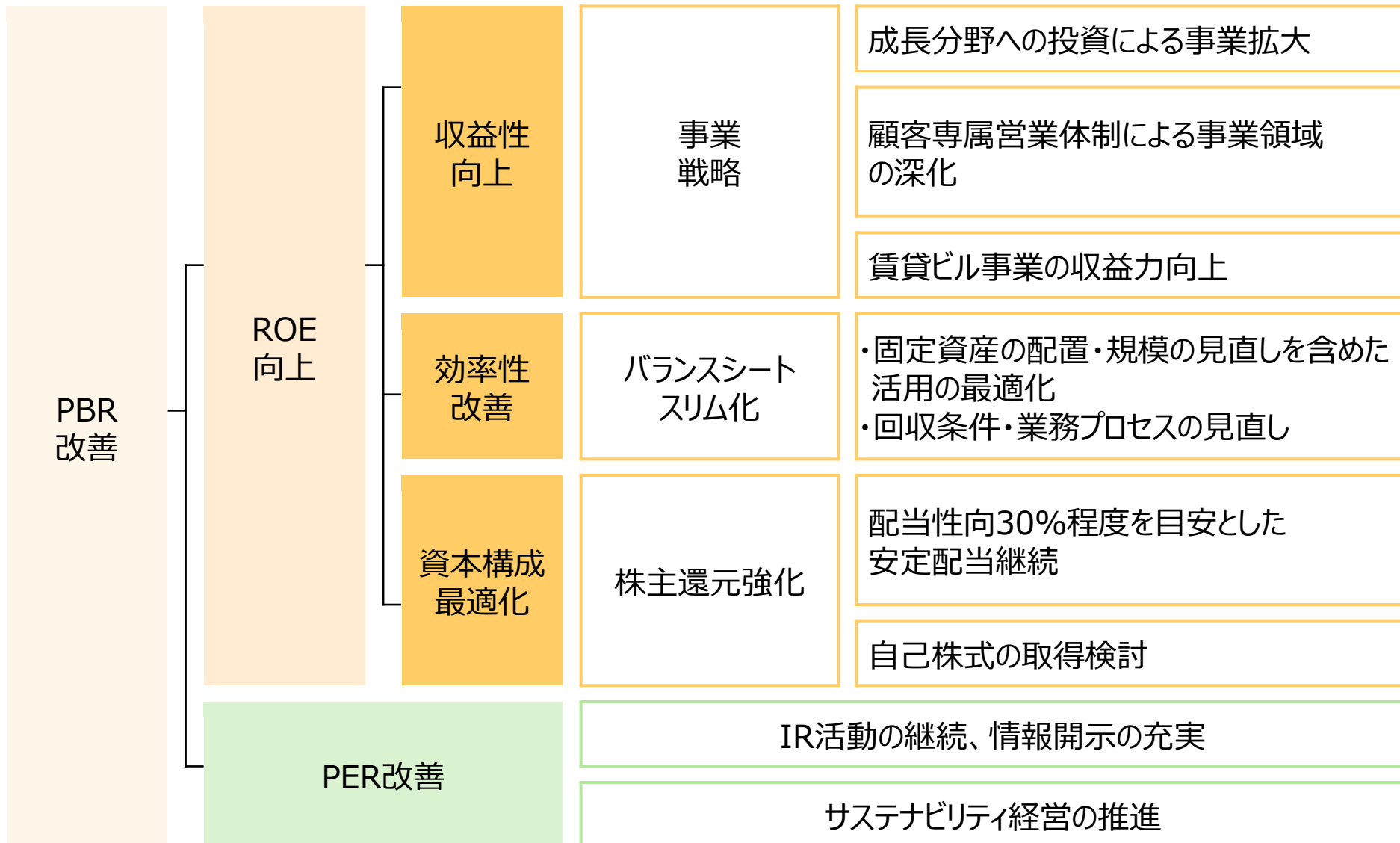


2-13. 基盤戦略：サステナビリティの推進

「美しく魅力のある会社の実現を目指す」との企業理念を踏まえ、誠実な事業活動を通じ、企業及び社会の持続的成長に貢献

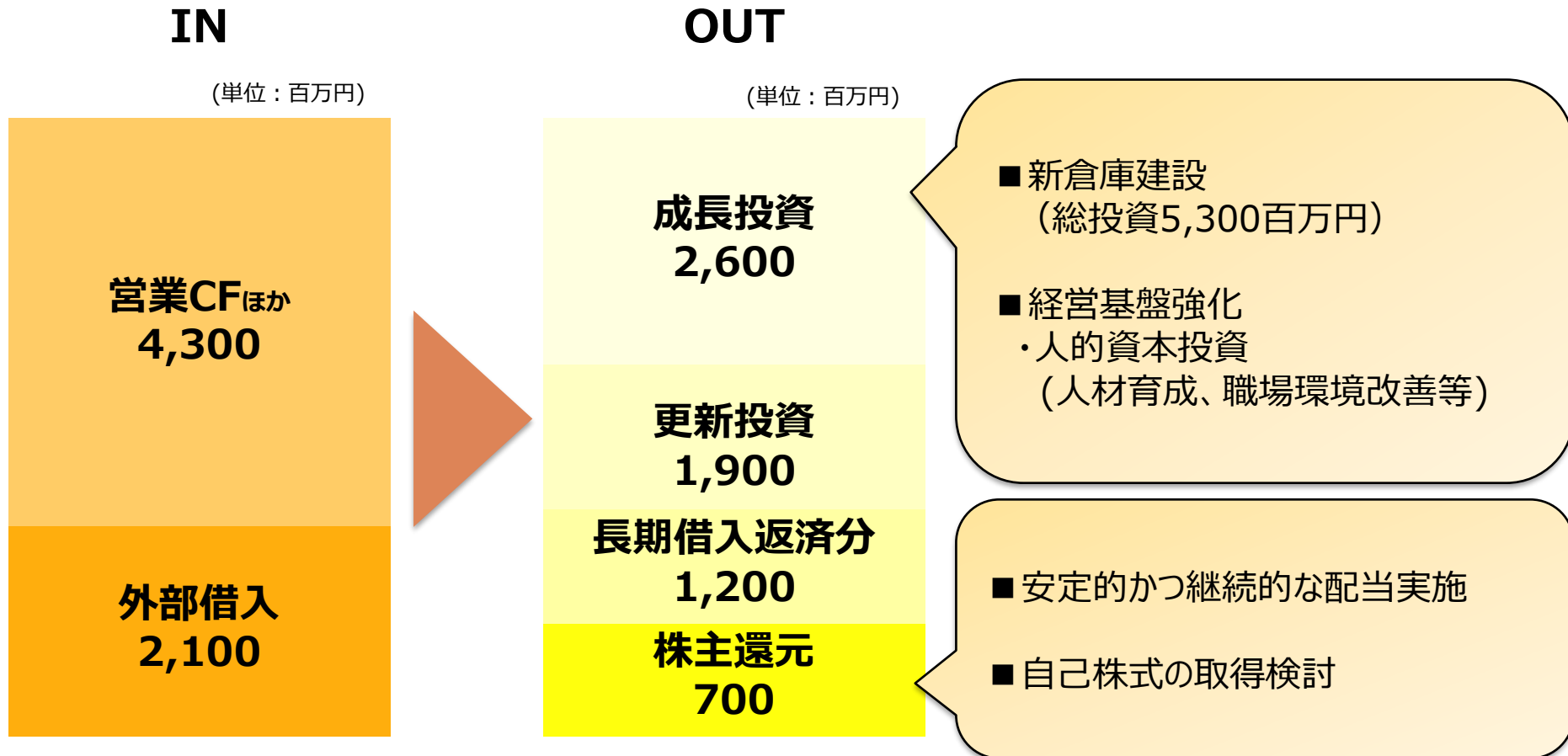
	目指す姿	主な取組み
環境への配慮	コスト削減と環境負荷低減を叶える物流サービスの提供	環境配慮型梱包及び輸送の提案 (積載効率、重量削減などによるCO2排出削減など)
安全・安心で働きがいのある職場	従業員が心身共に健康で生き生きと働く職場の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・職場環境改善（倉庫内の寒暑など） ・無事故、安全対策 ・業務生産性向上（IT化、改善活動） ・就業環境の質向上
ダイバーシティ	柔軟な働き方、多様な価値観が受け入れられる職場の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・人事制度刷新 ・多様な価値観を有する人材の育成 ・女性活躍の推進 ・育児、介護との両立支援環境整備
ガバナンス	経営執行の監督と牽制を通じた持続的な成長の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・取締役会の実効性向上 ・企業価値向上に向けたリスク、リターンの最適化管理の高度化

2-14. 財務・資本：企業価値向上に向けた取り組み



2-15. 財務・資本：キャッシュフロー

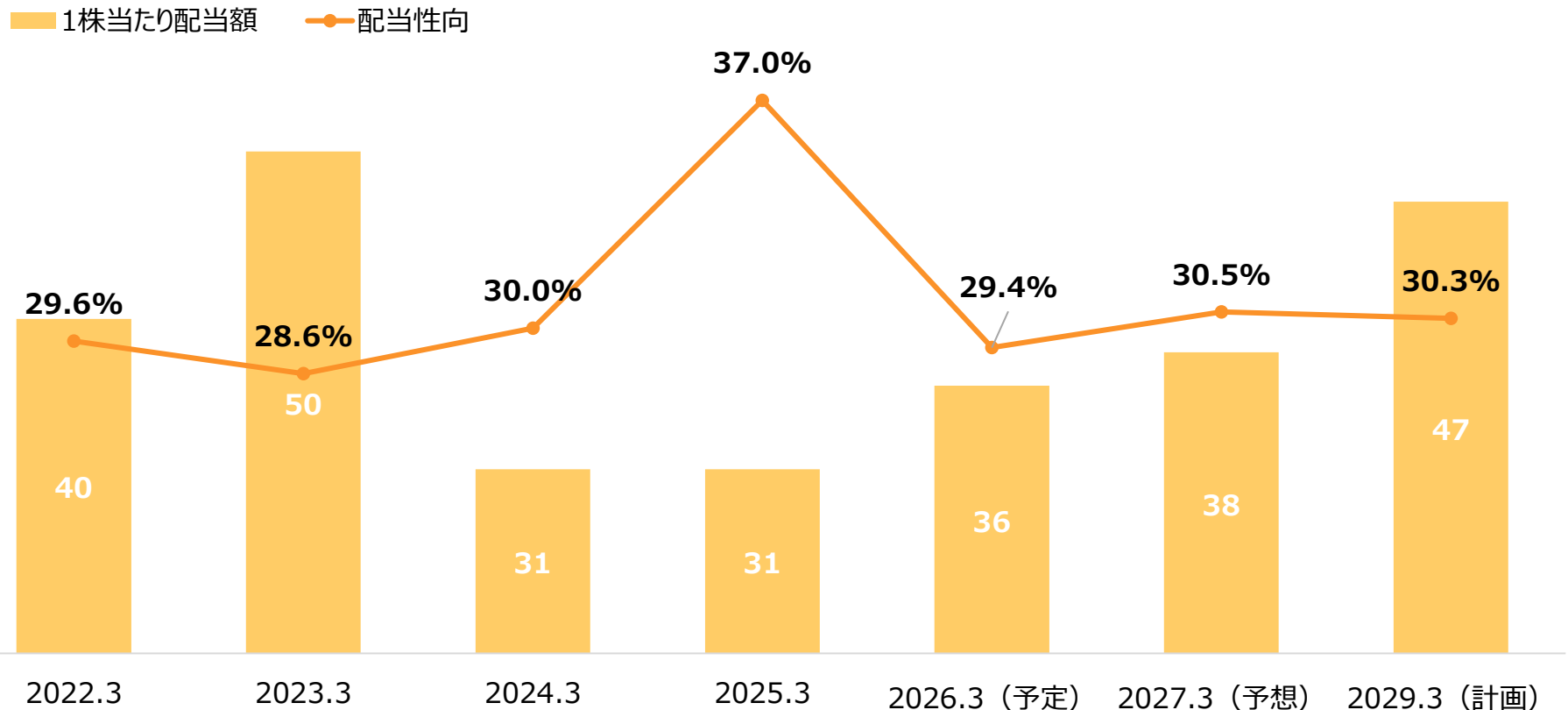
- ・外部借入を活用し、将来を見据えた人的資本を中心とした成長投資を推進
- ・財務健全性を維持しつつ、株価水準などを勘案し、安定的かつ継続的な株主還元



2-16. 財務・資本：株主還元

— 配当政策 —

- ・収益に応じた株主への利益還元を経営上の最重要課題の一つとして認識
- ・財務体質の強化と今後の国内外における事業展開等を総合的に勘案しつつ、積極的に配当を実施することを基本方針とする
- ・連結配当性向を30%程度とすることを基本として検討



3. 2027年3月期 業績予想

1. 2026年3月期 決算概要
2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画
3. 2027年3月期 業績予想
4. Appendix

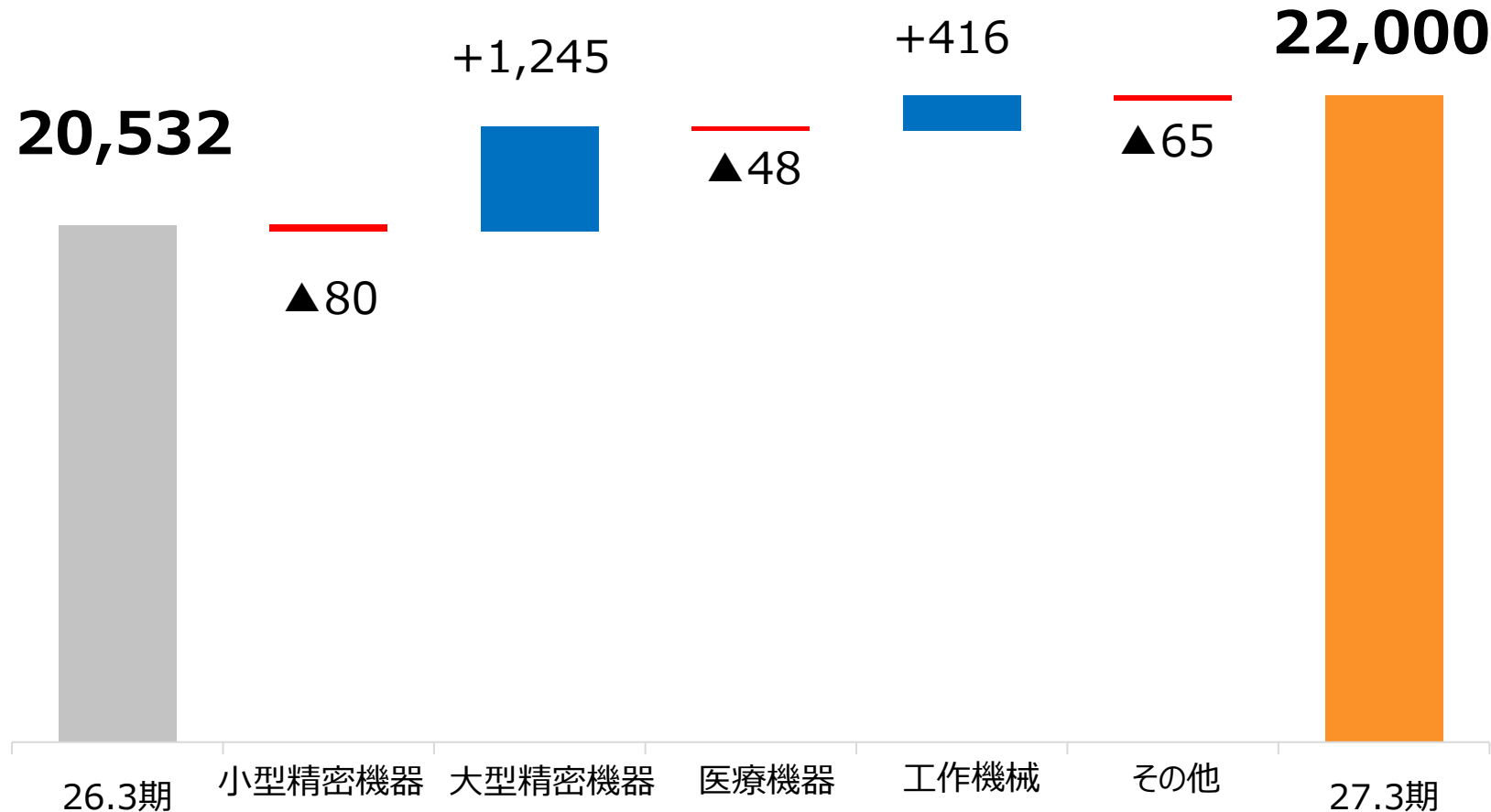
3-1. 連結業績予想

成田新倉庫稼働及び大型精密機器の取扱い増加による増収を見込む

単位：百万円	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (予想)	増減	増減率
売上高	20,532	22,000	+1,468	+7.1%
売上原価	16,167	17,060	+893	+5.5%
(売上原価率)	78.7%	77.5%	▲1.2Pt	-
販売管理費	3,330	3,590	+260	+7.8%
(販売管理費比率)	16.2%	16.3%	+0.1Pt	-
営業利益	1,035	1,350	+315	+30.4%
(営業利益率)	5.0%	6.1%	+1.1pt	-
経常利益	987	1,050	+63	+6.4%
当期純利益	687	700	+13	+1.9%
(当期純利益率)	3.4%	3.2%	▲0.2pt	-
(参考) 設備投資	4,528	2,584		
(参考) 減価償却費	883	1,017		

3-2. 取扱製品群別売上予想

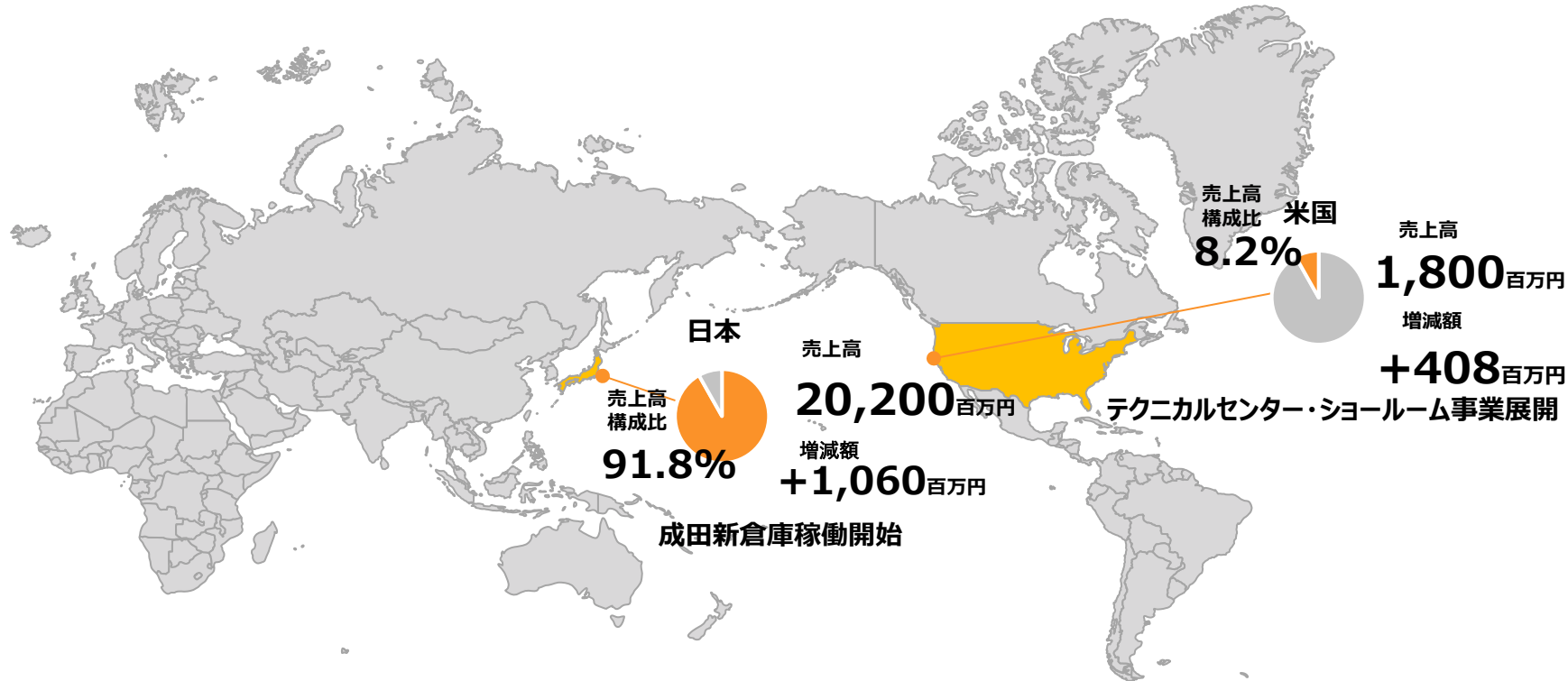
- ・主に成田新倉庫の稼働により、大型精密機器の取扱いの増加を見込む
- ・米国では工作機械の取扱い復調を見込む



単位：百万円

3-3. 地域別業績予想

- ・日本は主に成田新倉庫の稼働により増収
- ・米国は新たな倉庫戦略で増収見込む



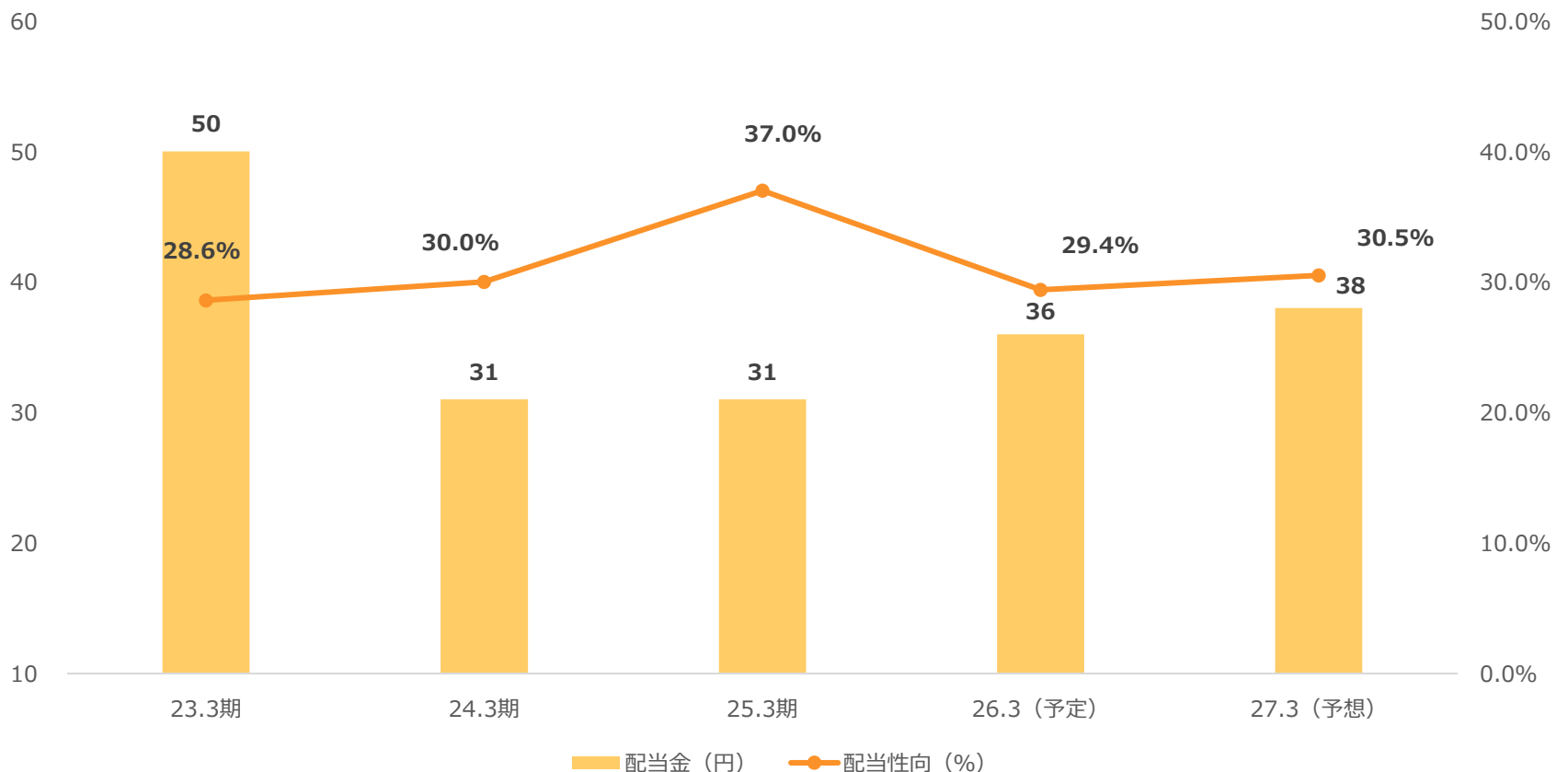
USD/JPY=158.00

3-4. 配当方針

株主還元方針：連結配当性向**30%**を目途に検討

2027.3期：配当性向**30%**程度を維持

2026.3期：1株当たり**36円**を配当予定





※ 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づき記述したものでありますが、この記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる可能性があることをご留意ください。

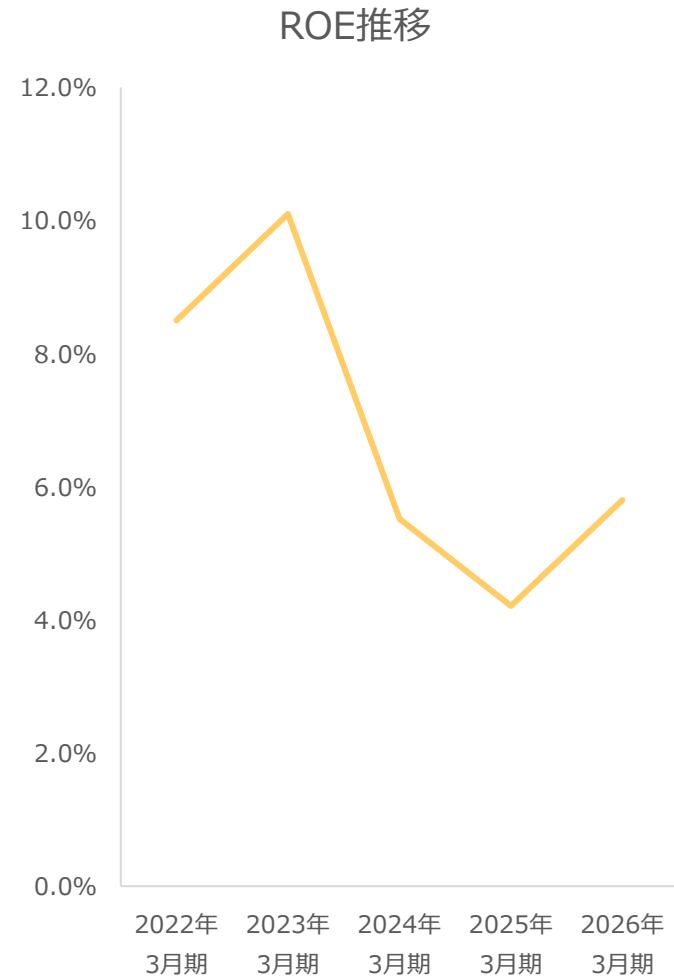
問い合わせ先：企画部

4. Appendix

1. 2026年3月期 決算概要
2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画
3. 2027年3月期 業績予想
4. Appendix

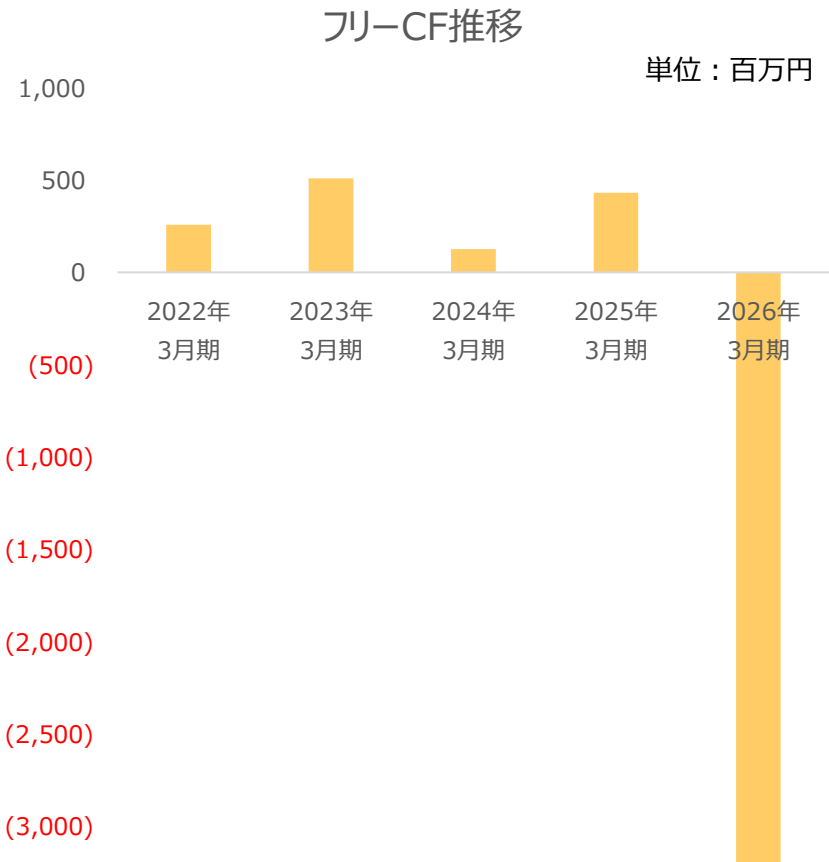
2026年3月期 連結貸借対照表

(百万円)	2025年 3月末	2026年 3月末	前期比増減
流動資産	8,515	6,936	▲1,579
固定資産	16,158	19,792	+3,634
有形固定資産	13,580	17,111	+3,531
無形固定資産	190	133	▲57
投資その他の資産	2,387	2,548	+160
資産合計	24,674	26,728	+2,054
流動負債	6,713	5,771	▲941
固定負債	6,163	8,646	+2,482
負債合計	12,877	14,417	+1,540
純資産合計	11,796	12,311	+514
負債及び純資産合計	24,674	26,728	+2,054
売上高当期純利益率	2.3%	3.4%	+1.1 pt
流動比率	126.8%	120.2%	▲-6.6 pt
自己資本比率	47.2%	45.4%	▲1.7 pt
ROE	4.2%	5.8%	+1.6 pt



2026年3月期 連結キャッシュフロー計算書

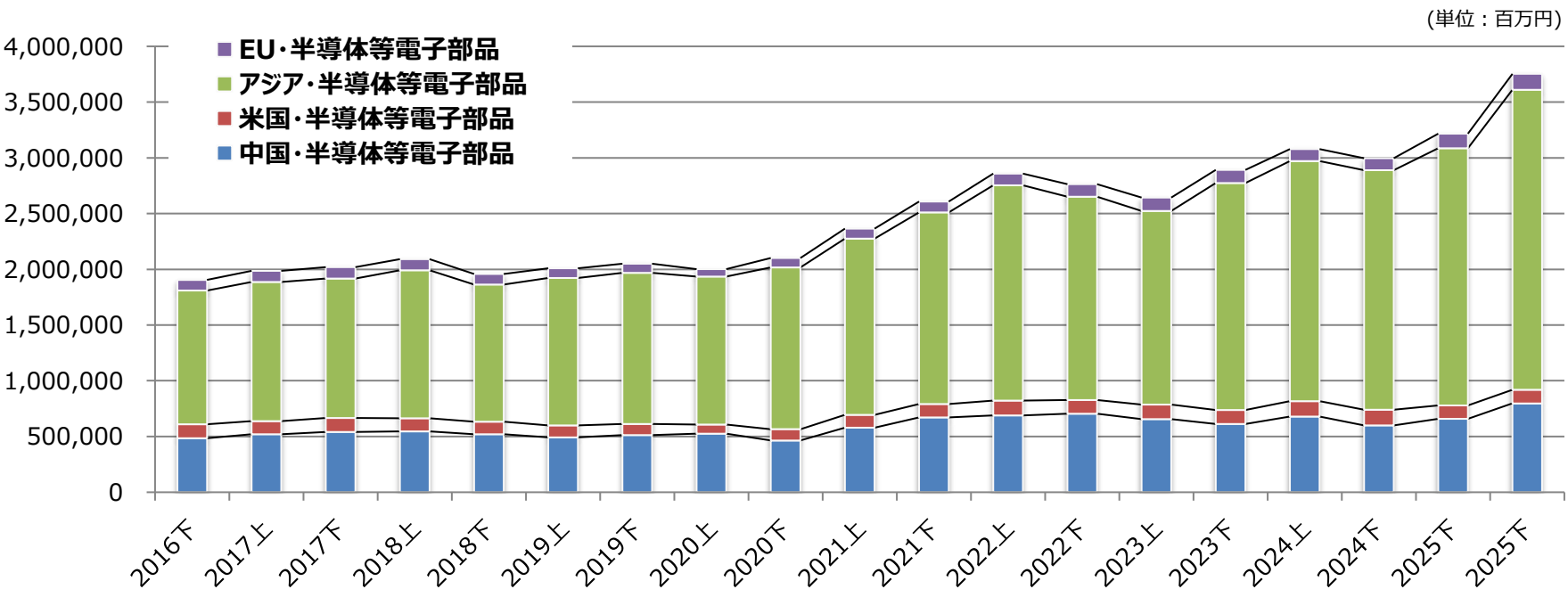
(百万円)	2025年 3月末	2026年 3月末
営業活動によるC/F	1,663	1,285
うち税金等調整前当期純利益	688	986
うち減価償却費	832	883
うち未収消費税等の増加額 (▲は益)	-	-248
うち法人税等の支払額 (▲は減少)	-226	-270
投資活動によるC/F	▲1,231	▲4,482
うち有形固定資産の取得による支出	▲1,000	▲4,445
うち差入保証金の差入による支出	▲127	▲83
うち差入保証金の回収による収入	2	63
財務活動によるC/F	1,061	1,825
うち短期借入金の純増減額 (▲は減少)	▲100	▲200
うち長期借入による収入	5,100	5,970
うち長期借入金の返済による支出	▲3,500	▲3,516
うちリース債務の返済による支出	▲229	▲245
換算差額	90	▲49
現金及び現金同等物の増減額	1,583	▲1,420
現金及び現金同等物の期末残高	3,803	2,382



【参考】外部環境(～2025年度下期)

品目別輸出金額 年別推移 (半導体等電子部品)

※半導体等電子部品…熱電子管、個別半導体、ICなど



・需要の高まりにより増加傾向にあるが、米中の対立による影響懸念。

出典：財務省貿易統計より

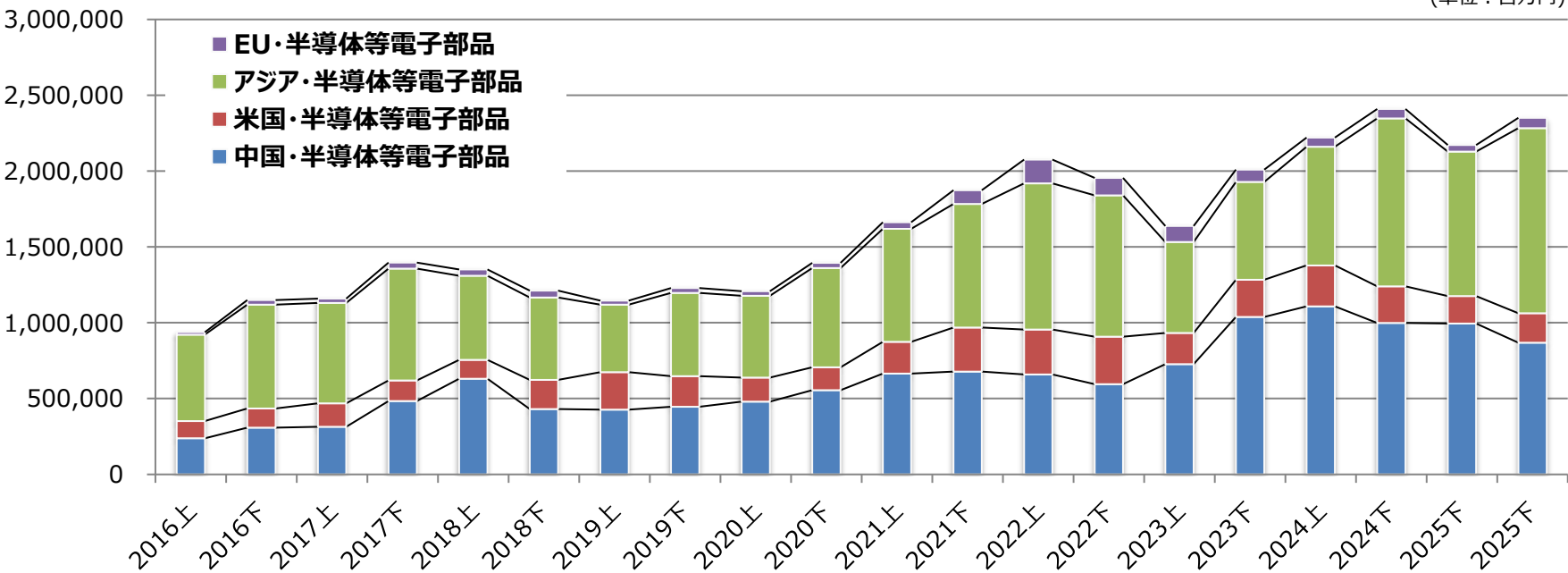
【参考】外部環境(～2025年度下期)

品目別輸出金額 年別推移 (半導体製造装置)

※半導体等製造装置…半導体ボール又は半導体ウエハー製造用の機器

半導体デバイス又は集積回路製造用の機器

(単位：百万円)



・2022年下期にかけて増加傾向がみられたが、2023年上期で急激に減少し底打ちか。

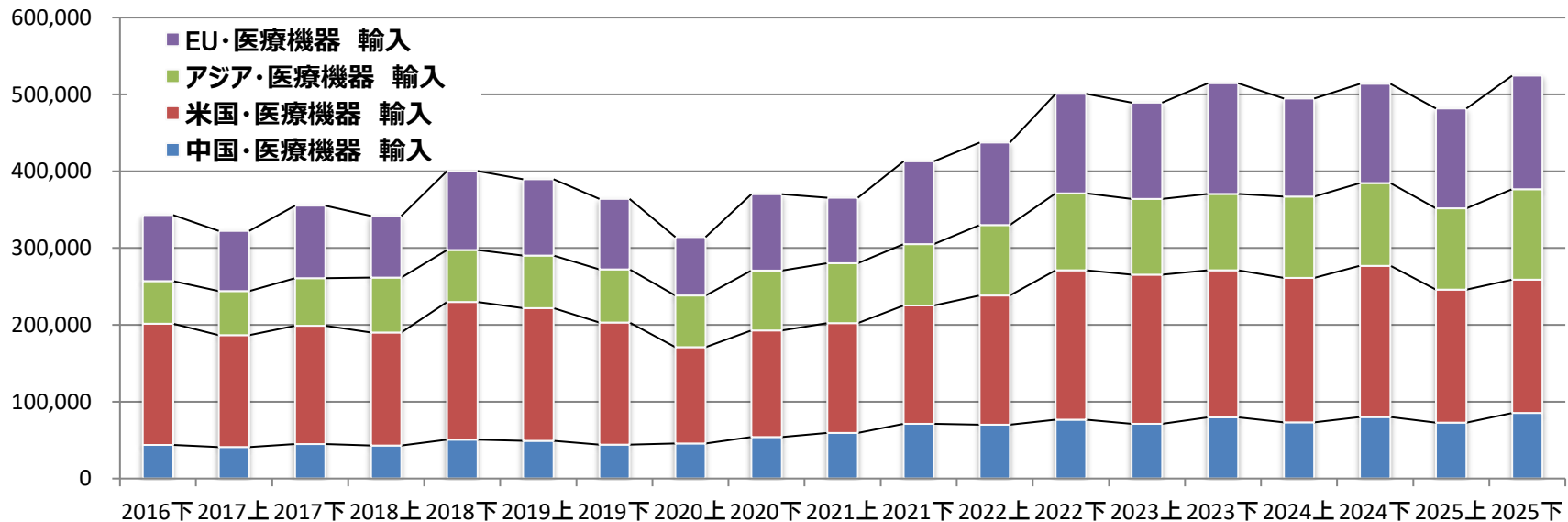
出典：財務省貿易統計より

【参考】外部環境(～2025年度下期)

品目別輸入金額 年別推移 (医療機器)

※医療機器…医療用または獣医用機器、診断用電気機器、エックス線などを使用する機器など

(単位：百万円)



・コロナ禍以降増加傾向にあり、おおむね堅調な推移となっている

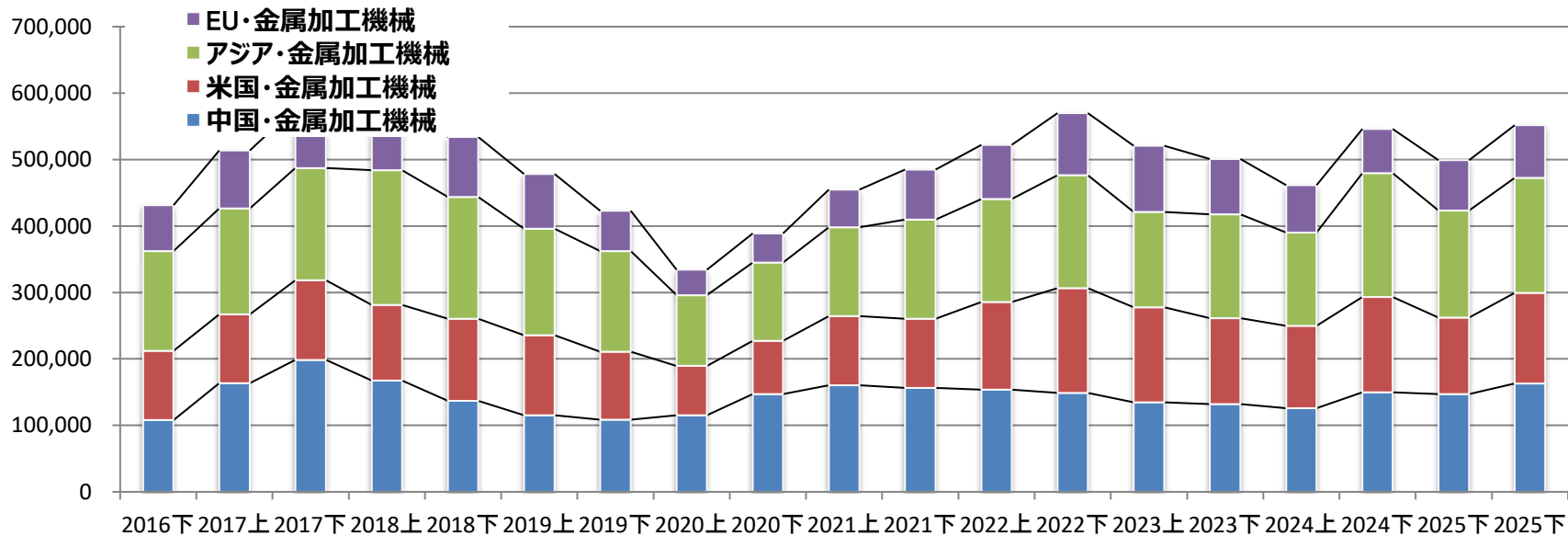
出典：財務省貿易統計より

【参考】外部環境(～2025年度下期)

品目別輸出金額 年別推移 (金属加工機械)

※金属加工機械…旋盤、研削盤、金属加工用のマシニングセンターなどその他の加工機械

(単位：百万円)



・金属加工機械はシクリカルな業界動向であるが、2024年上期で底打ちか。

出典：財務省貿易統計より